

聖行差引紙數壹百廿枚

物ノ記

城數馬譯

自为百十九条至为二百十九条

民法理由才高財產編物権第四

尺...

...

...

...

...

第二節...

第二節 取得

第百八於九条及第百九於条

第百八於九条及第百九於条は既に第百八於条に於て占有ノ

定義ヲ掲クルトキニ當ツテ示シタル規則ヲ確

定シタルモノナリ即チ法定ノ占有ハ二個ノ要

素ニ因テ組成セラル一ハ事實ニシテ有体ノモ

トナリ一ハ意思ニシテ至ク無形ノモノナリ此

二個ノ要素ニ関シテハ特ニ詳細ノ説明ヲ爲ス

トトヨ要セズ何トナレハ此二個ノ要素が占有

ノ取得ノ爲ニ必要ナルコトハ自然ノ理ニ基ク

モノナシハナリ
第百九拾五ノ於テ定メタル事實ト意思ト人間
ノ差異ハ容易ニ之ヲ解スルニトヲ得必シ
占有ヲ組成スル事實ハ要素ニ必ズモ占有ハ
利益ヲ得トスルモノハ一身ニ存スルニトヲ
必要トセズ何トナレバ又ハ行為ニ必ズ其範圍
ニ限りアルモノナレバ故ニ自カラ占有ハ事實
ヲ行フ場合ニ限リテ其自占有ハ利益ヲ得然ラ
ハ正トキハ總令自己ノ名義ヲ以テ他人ヲ以テ
占有ハ實爲ヲ爲サシムルトキトモ自カラ

占有ノ處爲メ爲シムルトキトモ自カラ

占有ノ利益ヲ受クル能ハサル者トスルトキハ

各人ハ姑ニド自己ノ財産ノ監督保存及び改良

等ヲ他人ニ委託スルコト能ハサルニ至ルハ

事實ノ要素ハ此ノ如ク他人ニ委託スルコトヲ

得心シト爲トモ占有ノ点ニ於テ他人ニ委託ス

ルモ其効ナク即チ姑ニド委託スルコトヲ禁セ

ラレタリト謂フコトヲ得ベキ要素アリ即チ自

己ノ爲ニ權利ヲ有スルノ意思是レナリ何トナ

レハ意思ハ事實ト異ナリテ狹隘ナル範圍アル

モノニ非ラス故ニ一己ノ物ヲ有スルノ意思ト

同時ニ猶ホ他ノ物ヲ有スルノ意思アルコトヲ
得心シ而シテ眞數甚ハ大ナル物備ニ及ボスコ
トヲ得心シ故ニ在有ノ意思ニ至ツテハ他人ニ
委托スルコト必要ナラズ且ツ法律ニ於テモ意
思ヲ表示スルコトハ必ズシモ一定ノ方法ニ據
ルコトヲ要セズ惟自己ノ物トスル意思アルコ
ト明カナシバ即チ是リトス
意思ノ要素ハ他人ニ委ヌルコトヲ得ヌトノ事
則ニ對スル例外ハ軍ニ必要ノ場合ニ限ツテ法
律ニ認ムル所ナリ而シテ立法者ハ二個ノ場合

二於テノ此必要ヲ認メタリ第一無能力者タ
 ル占有者ノ場合及此法人ガ占有者タル場合
 計リ蓋シ法人ノ如キハ其法律上ノ代理者ニ據
 ルニ此ヲガシト自己ノ意思ヲ有スルコト能ハ
 ンカシタルナリ
 右ニ掲ゲタル占有ノ意思ハ他人ニ委ヌルコト
 ヲ得ス占有ノ利益ヲ得ントスルモノニ於テ常
 ニ此意思ヲ有スルコトヲ要ストルノ規則ハ之
 解ニテ狹隘ニ失スルコトナキヲ要ス即チ
 使用人又ハ朋友ニ委託シ之ニ物品ノ撰擇ニ

之ノ撰擇ヲ
 撰擇ニ

関之テ多少ノ自由ヲ典ハ以テ事々個々確定セ
ナル多少ノ物ノ占有ヲ取得セシムルコトヲ得
ハク此場合ニ於テ爲シタル委托ハ至ク法律上
有効ノモノナリ然レトモ是レ決シテ右ニ掲ケ
タル原則ニ對スル例外ノ場合ニ執ラス即チ占
有ノ意思ハ之ヲ他人ニ托シタルモノニ執ラス
此ノ如キ場合ニ於テ占有ヲ爲スノ意思ハ委托
者ニ於テ充分ニ有スルモノナリ惟其目的トシ
ル所取モノ多少不確定ニシテ代理者カ撰定シ
タル所ノ物ヲ占有セシトスルノ意思ナリノ

三又委託者ニ占有ノ意思存スルニハ代理者が
 委託ノ事項ヲ実行シタル時ヲ委託者が知ルコ
 トヲ必要ト為サズ何トナシバ委託者ノ意思ハ
 委託ヲ為シタル時ニ於テ既に成立スルモノニ
 シテ代理者が其委託ヲ実行スルト否トハ惟委
 託者ノ意思ノ効力ノ實際ニ生ズル遲速ニ関ス
 ルノミナシバナリ本人ノ意思ニ基キテ代理者
 が占有ヲ為シタル場合ニ於テハ右ニ論スル如
 クナリト云トモ若シ委任ヲ受メルコトナク至
 ク他人ノ為メニ事務管理ノ行為ヲ以テ占有ヲ

爲シタル場合ニ於テハ前ニ述ブル所ト同一ナルヲ得又此場合ニ於テ事務ヲ管理セラレタル本人ハ自カラ管理人ノ處爲ヲ知り而シテ之ヲ承諾シタルトキニ此ラサレト有ヲ取得スルニトナシ

第百九於一条

本条ニ於テ確認スル所ノ二個ノ原則ハ其源ヲ羅馬法ニ發シ而シテ今日ニ至ルマデ政州諸國ニ於テ採用セラレタル所ノモノナリ本条ニ規定シタル二個ノ場合ニ於テハ事实上專有ノ所

在ハ更ニ変更スルコトナシトモ法律上至
ク其所在移轉シタルモノト看做セリ

而シテ本條ニ掲タル二個ノ場合ハ全ク相表裏
スルモノナリ第一ノ場合ハ於テ受寄者、借主、賃
借人等ノ如ク容假ノ占有ヲ有スルニ止マツテ
所有者ノ為メニ其物ヲ占有シ又ハ所有シタル
ト否トヲ問ハズ寄託、貸與又ハ賃貸ヲタル人ノ
為メニ其物ヲ占有スルニ當リ自カラ其物ノ所
有權ヲ取得センコトヲ欲シ更ニ賣買ノ契約ヲ
結ビ自己ノ所有權トシテ更ニ占有ヲ為ス如キ

場合是ナリ

法式ヲ重シスル法律ニ在テハ右ノ場合ニ於テ
必クヤ買主トナリ又ル受寄者又ハ債借人ハ從
來客假ノ占有者トシテ自己ノ手裡ニ存シ又ル
モノヲ一旦寄託者又ハ債借人ニ返還シ而シテ
後新又ハ賣買契約ニ依リ之レガ交付ヲ受ケル
コト必ク要ナリトスベシ然レトモ事ノ迅速ト便
宜トヲ主トス又キハ自然ノ理ナルニ依リ此再
度ノ交付ハ意思ノ變更ニ因テ当然ニ為サレ又
ルモノト知スコトヲ要ス即チ客假ノ占有ハ簡

易ノ引渡ニ因テ法定ノ專有トナレモノナリ
第二ノ場合ニ於テハ第一ノ場合ト至ク相及セ
リ所有者其所有スルモノヲ賣リ又ハ占有者ガ
自己ノ物トシテ占有スル所ノモノヲ賣リ而シ
テ賣買ト同時ニ其物ヲ買主ニ交付シタルトキ
ハ買主ハ占有ノ意思ノミナラス仍ホ占有ノ事
実ヲ有ス心キコト勿論ナリ然レトモ此場合ニ
於テ或ル事情ト便宜トニ基キ賣主ニ於テ仍ホ
一時物ノ使用ヲ已レノ手ニ止メント欲スル場
合ニ於テハ賣主ト更ニ之ヲ約スルコトヲ得ベ

之然ルニ此契約ノ後賣主ガ物ノ占有ヲ為スハ
買主ノ為メニ且ツ其名義ニ於テ容假ノ占有ヲ
為スモノナリ從ツテ買主ハ他人ノ所為ニ因テ
自カラ占有ヲ為スモノニシテ此場合ニ於テ買
主ハ賣買ノ契約ニ基キ一旦物ノ占有ヲ得而シ
テ直チニ使用貸借又ハ借貸借等ノ如キ契約ニ
依リテ更ニ賣主ニ物ヲ交付シタルモノト看做

凡レ賣主其物ノ占有ヲ失フニ至ルモ其物ノ
所有權ハ賣主ニ在リ

本條末項ハ權利ノ專有ノ取得ニ関シテ曰一ノ
理論ヲ適用シタルモノナリ即チ自己ノ為メニ

權利ノ行使ニ及ビ
賣主ノ意圖更ニ他人ノ為

理論ヲ適用シタルモノナリ即チ自己ノ為メニ

権利ヲ行使シタル者ノ意思変更ニ他人ノ為

メニ之ヲ行使スルノ意思アルヲ以テ足シリト

又此場合ニ於テハ前ニ掲ケタル場合ノ如ク引

渡等ノ想像ヲ為スニトテ要キ又權利ノ所在ノ

變更ハ全ク意思ノ変更ニテ以テ充分ニ之ヲ

解シコトヲ得ハシ

第百九於二条

本条第一項ノ場合ニ於テハ占有ノ繼續アリ而

シテ第二項ノ場合ニ於テハ占有ノ併合アリ

相続人其他包括承継人ハ其常權者ノ法律上ノ

資格ヲ継続スルモノナリ其有ニ又ハ權利ト利
益トヲ相續スルノミナラズ仍ホ其負担ニ又ハ義
務ヲ併セテ相續スルモノナリ此原則ハ或ハ場
合ニ於テ例外アリト多トモ今論スル占有ニ関
シテハ資産ヲ組成スル權利ニ付キ特別ノ規定
アルニトシテ從ツテ一般ノ原則ニ從ヒ原權者
ト相續人トノ間ニハ同一ノ占有ヲ至ク継続ス
ルモノト謂ハサレテ得ス此ノ如キ理ナルニ依
リ若シ原權者ノ占有ガ客假ナレトキハ其占有
ハ相續人ノ手ニ移轉シ又ハ後ト至トモ依然客

相続人ノ手ニ移轉シ又ハ後ト至トモ依然客

假ノ占有タルハ此ノ占有ヲシテ客假ノ性値ヲ

失ハシムルニハ第百八拾五條ノ規定ニ從ヒ其

占有ガ常因~~改~~性値ヲ變シタルニトテ必要ト

為ス而シテ是レ相統ノ場合ニ限ルモノニ非ラ

スレテ当初ノ占有者自身ト至トモ又為レ得ル

キ所ノコトナリ

常権者ノ占有ガ法定ノモノニシテ而シテ常

ナキ場合ニ於テハ相統人ニ於テモ亦無常権者ノ

占有ヲ有スルニ止ム心ニ相統人ノ名義ヲ以テ

財産ヲ相続スルハ常権者ニ属スル財産ヲ自己

取得スル正当ノ原因ニ非ラズ何トナシハ已
ニ述ツタル如ク包括名義ノ相続ハ宗權者ノ法
律上ノ資格ヲ継統スルモノニテ特ニ財産ヲ
取得スルモノニ非ラザルナリ

宗權者ノ占有ニ強暴又ハ隱密ノ瑕疵アリト虫
トモ此瑕疵ハ必ズモ相続人ノ占有ノ瑕疵ヲ
為スモノニ非ラズ然レトモ是レ敢テ占有者異
ナリタルカ故ニ瑕疵存セズト云フノ意ニ非ラ
ズ惟此瑕疵ハ容假ノ性質ト同シク宗權者ノ一
身ニ於テモ消滅スルコトヲ得心キモノナルニ

身ニ於テモ消滅スルコトヲ得ベキモノナルニ

依リ相続人ニ於テモ此ノ如キ瑕疵ヲ有セサル
ニト有リ得ベケレバナリ故ニ原権者が強暴ヲ
以テ占有ヲ至ラシメタル場合ニ於テ相続人ハ強
暴ヲ息メ又ハ原権者ノ占有ガ隠密ナル場合ニ
於テ相続人が充分ニ其占有ヲ公ケナラシメタ
ル場合ニ於テハ其占有ハ至ク瑕疵ナキ所ノモ
トナルハ第百八拾三条ノ規定ニ從ツテ原権
者自カラ自己ノ占有ヲ以テ瑕疵ヲ失ハシメタ
ル場合ト同一ナルベシ
原権者ノ占有ガ正権原ヲ以テ基礎ト爲シタル

場合ニ於テハ其占有ニハ善意又ハ悪意ノ區別
 アル心シ而シテ正権原ノ占有ノ相続ノ場合ニ
 於テハ相続人ノ占有モ亦原権者ノ占有ト同シ
 ヲ善意又ハ悪意ノモノタル心シ然レトモ原権
 者が善意ヲ以テ占有ヲ為シタル場合ニ於テ其
 相続人ハ亦権者が真正ノ権利者ニ非ラサルコ
 トヲ知レルニト有ル心シ此ト同一ノ理ニ因リ
 亦権者ハ自カラ真正ノ権利者ナリト信セサリ
 此トキトモ相続人ハ亦権者ヲ以テ真正ニ
 権利ヲ有シタルモノト信ズルニト有ル心シ此

ノ如ク原権者ト相続人トノ間ニ意見ヲ異ニス

ノ如ク専權者ト相統人トノ間ニ意見ヲ異ニス
 ルモ之レガ爲ニ生スル法律上ノ効力ハ専權者
 自ラ之ヲ前後意見ヲ異ニシタル場合ニ於ケルト
 異ナルコトナク敢テ専權者ト相統人トノ故ヲ
 以テ特別ノ効力ヲ生スルコトナシ而シテ専權
 者ガ当効善意ニシテ後其權原ノ瑕疵アルコト
 ラ發見シタル場合ニ於テハ其時ヨリシテ惡意
 ノ占有者トナルハ此ト爲トモ之レガ爲ニ短期
 時効ノ利益ヲ失フモノニ被テス何トナシ人時
 効ノ爲ニ必要ナル占有ノ善意ハ權限ノ生シタル

ル当時ニ於テノ一存スルハ即チ是ルモノナシ
ハナリ之レニ及ニテ悪意ト考リタルトキヨリ
後ニ採收ニタル果実ノ利ハ之ヲ失フベシ何ト
ナレバ果実ノ取得ニ関ニテハ其時々善意ノ存
在スルコトヲ必要トスレバナリ

右ノ場合ニ及ニ當初悪意ニシテ後善意ナル場
合ハ亦権者ト相続人トノ間ニ於テ屢々生スル
コトヲ得心ク即チ亦権者ハ真正ノ権利者ナラ
ザル場合ニ於テ相続人ハ亦権者が充分ニ権利
ヲ有シタルコトヲ信ズルニト決シテ勘ナラサ

ルベシ然レトモ此場合ノ外亦権者が當初悪意

ルベシ然レトモ此場合ノ外原権者が当初悪意
ニシテ他日自カク善意トナル場合ハ實際ニ於
テ甚ク罕シナル場合タリ且ツ此善意ハ前ニ述
ベタル短期時効ノ利益ヲ得セシムルモノニ非
ラズ唯通常ノ時効ニ先如キ又ハ権利者ノ請求
ニ先ツテ採收シタル果实ノ利益ヲ得セシムル
ニ止マレモノナリ
包括承継人ニ関シテハ以上ニ論スル所ノ如シ
ト虽トモ特定ノ承継人ニ至テハ至ク右ニ述
ル所ト異ナリ

特定承継人ハ、尙権者ノ人格ヲ継続スルモノニ

非ラズ蓋シ尙権者ノ人格ハ遺言ノ場合ヲ除ク

外仍チ別ニ成立スルガ故ニ特定承継人ヲシテ

継続セシムルノ必要ナシ特定承継人ハ尙権者

ノ人格ヲ継続セサルガ故ニ占有モ亦之ヲ継続

スルコトナク特定自己ノ名義ヲ以テ新々ナル

占有ヲ為スモノナリ譲渡人ガ所有権ヲ有スル

トキハ之ヲ譲受ケタルモノハ其所有権ヲ取得

シ而シテ其間ニ於テ権利ノ所在ヲ変シタルノ

ニ権利其者ニ至テハ全ク同一ナリトス然ルニ

独リ占有ニ至テハ特定財産ノ買主又ハ受贈者

独り占有ニ至テハ特定財産ノ買主又ハ受贈者
 ハ賣主又ハ贈與者ノ占有ヲ取得スルニ非ラズ
 テ自カラ新ク占有ヲ為スハ其間甚ク不可
 思議ナルモノ有ルニ似タリト雖トモ此差異ノ
 理由ハ容易ニ之ヲ解スルニトテ得心ニ占有ハ
 已ニ述べタル如ク二個ノ要素ヨリ成立スルモ
 ノナリ其一ハ有形ノモノニシテ有**体物**所持
 若クハ權利ノ行使タル處為是ナリ其二ハ無形
 二ニシテ占有スルノ意思是ナリ然ルニ自己ノ占
 有スルモノヲ讓渡スモノハ同時ニ占有ノ事實

ヲ失フト共ニ占有ヲ為スノ意思ヲ失フモノナ
 リ故ニ其占有ハ讓渡ニ因テ至ク消滅スルモノ
 ト課フベシ而シテ買主又ハ受贈者ハ自己ノ為
 ニ占有スルノ意思ヲ以テ更ニ一個ノ占有ヲ取
 得シ讓渡人ノ占有ト少シモ関スル所ナシ故ニ
 其性質及ビ瑕疵ニ至テモ亦讓渡人ノ占有ト関
 スルコトナク自己ノ為ニタル新占有ニ之ヲ定
 メサレ可カラス
 讓渡人ノ占有ハ縱令客假ノモノナリニ時ト虽
 トモ承継人ノ占有ハ法定ノモノナリコトヲ得

心ニ故ニ受寄者又ハ賃借人が受寄物又ハ賃借

べし故に受寄者又ハ貸借人が受寄物又ハ貸借
 物ヲ他人ニ賣渡シ之ヲ交付シタルトキハ其有
 シタル客假ノ占有ハ至ク正息ニ而シテ讓受人
 ニ移轉スルコトナシ讓受人ハ新タニ一個ノ占
 有ヲ始メ而シテ其占有ハ至ク法定ノモノタル
 心ニ何トナシハ讓受人ハ自己ノ為メニ有スル
 ノ意思ヲ以テ占有ヲ取得シタル心ナリ又其占
 有ハ正権系ノ占有タルベシ何トナシハ賣買ハ
 占有ノ正当ナル爲因ニシテ即チ法律ノ所謂正
 権系ナレバナリ又此場合ニ於テ讓受人自ラ

讓渡人ノ權利ノ缺乏ヲ知ラザリシ場合ニ於テハ善意ノ占有者ナルニトテ得ベシ

右ニ掲ゲタル場合ニ及シ原権者ノ占有ガ正権系ノ占有ニシテ而シテ第ニノ占有ガ客假ノ占有ナル場合ニ付テハ特ニ説明ヲ爲サザルベシ何トナレバ此場合ニ於テハ法定ノ占有者ガ他人ニ寄託シ又ハ貸貸シテ他人ニ客假ノ占有ヲ得セシメタリト至トモ仍ホ法定ノ占有ハ依然寄託者又ハ貸貸人タル占有者ニ存スルガ故ニ未ダ占有ノ止息若クハ移轉ナルモノ有ラザシ

夫又占有ノ正意若クハ移轉ナルモノ有ラザシ

バナリ

譲渡人が法定ノ占有ヲ有スルモ其占有が無権

系ノモノナル場合ニ於テ譲受人ノ占有ハ至ク

新メナル占有ニシテ正権系ノ占有タルコトヲ

得ヤシ

又譲渡人ノ占有ガ正権系ヲ有シ而シテ悪意ノ

モノタル場合ニ於テ譲受人ノ占有ハ之ニ関

スルニトシク善意ノモノタルヲ得ヤシ何トナ

レハ譲受人ノ占有ガ善意ノモノタルニハ譲渡

人ノ権利ノ缺乏スルニトシテ譲受人が知ラザル

ヲ以テ足レリトスレバナリ

是レト同一ノ理ニ依リ讓受人ニ於テ善意ナリ

ニ占有ト魚トモ亦讓受人ニ於テ至ク悪意ノモ

ノトナルコトヲ得心シ

右ニ述ブル如クナルヲ以テ讓受人即チ特定名

義ノ承継人ノ地位ハ之ヲ包括名義ノ承継人ノ

地位ニ比スルニ時トシテ利益ナルコトアリ又

ハ不利益ナルコトアリ一概ニ之ヲ断定スルコ

トヲ得ズ

然レドモ羅馬法以來特定名義ノ承継人ハ自己

利益アリトシテ其ノ權利者ノ占有ヲ要ス

然レトモ羅馬法以來特定必義ノ承継人ハ自己

二 利益アル場合ニ於テハ其原権者ノ占有ヲ援
 用スルコトヲ得ルモノトセリ其理由ヲ考フル
 二 法定ノ占有ハ單ニ一個ノ事實ニ止マレルモノ
 二 此ラズ実ニ法律ノ認メタル一個ノ權利ナリ
 何トナレバ法定ノ占有ハ法律ニ由テ特ニ利益
 ヲ付ヤラシメタルノミナラス仍ホ訴權ヲ以テ之
 レガ担保ヲ設ケタルハナリ而シテ此權利ハ各
 人ノ資産ヲ組成スルモノニシテ實ニ融通ニ
 二 トヲ得ルキモノナリ從ツテ他ノ財產權ト同
 心ク凡テ讓渡スコトヲ得ルハ占有已ニ他ノ財

産ト同シク譲渡スコトヲ得ベキモノタル以上

ハ譲渡人ニ於テ單ニ占有ノミヲ有シタル場合

ニ於テ其權利ヲ買受ケタルモノハ必スヤ此占

有ヲ取得シタルト謂ハサルヲ得ズ然ラハ即チ

自己ノ占有ニ合ハスルニ牽括者ノ占有ヲ以テ

之自己ノ利ノ為ニ之ヲ援用スルコトヲ得ルハ

誠ニ至当ノコト、謂ハサルヲ得ズ

此ヲ以テ譲渡人ノ占有ガ正権常日ツ善意ノモ

ノニシテ譲受人ノ占有モ亦此ニ依リテ

譲渡ノ性質ヲ有スルトキハ譲受人ハ自己ノ占

有ト譲渡人トノ占有トヲ併セテ主張スルコト

譲渡ノ性質ヲ有スルトキハ譲受人ハ自己ノ占

有ト譲渡人トノ占有トヲ併セテ主張スルコト
ヲ得ベシ即チ短期時効ノ成就ヲシテ長ク速ク
ナラシムルハナリ

又譲渡人ノ占有ガ無権原ノモノナルカ又ハ正
権原ナルモ悪意ノモノナル場合ニ於テ譲渡前

已ニ廿ケ年以上経過シ從ツテ仍由十ケ年ヲ経
過スルトキハ取得時効成就スルキ場合ニ於テ

其占有ヲ譲受ケルトキハ譲受人ガ自己ノ占
有ノ善意ト悪意トニ拘ラズ譲渡人ノ占有ト自

己ノ占有トヲ併合シテ其利益ヲ受クベシ何ト

ナレバ譲受人ハ譲渡人ヨリ惟此占有ヲ取得シ
 タルモノナレバナリ而シテ此事タル真正ノ所
 有者ノ知ニ何等ノ損害ヲモ加フルモノニ非ラ
 ズ何トナレバ十ヶ年ヲ経過スルトキハ縱令譲
 渡ナカリシ時ニ於テモ亦真正ノ所有者ハ均シ
 ク回復ノ訴ヲ為スコト能ハサルニ至ルヤク敢
 テ譲渡アリシ爲ニ特ニ不利益ヲ受クル所アラ
 カシハナリ
 善意ノ譲渡人ノ占有ト善意ノ譲受人ノ占有ト
 ヲ併合シテ之ヲ主張スルハ得ルニ例令ハ

譲渡人ガ己ニ恰當年留占有ニ以ルルヤ
 譲渡人ガ己ニ恰當年留占有ニ以ルルヤ

譲渡人が已に拾餘年間占有し仍亦一ヶ年ノ占
 有ヲ以テ短期時効ノ成就ニ至ルルキトキニ放
 テ之レガ譲渡ヲ為シ而シテ讓受人ノ悪意ノ占
 有者ナル場合ニ於テハ固ヨリ善意ノ占有ヲ必
 要トスル短期ノ時効ヲ受テキキニ此ラズ從ツ
 テ一ヶ年ニシテ時効ノ成就ニ至ルルキモノニ
 非ラズ然レドモ更ニ於六ヶ年ノ占有ヲ為シ又
 ルトキハ譲渡人ノ十餘年ノ占有ト併合シ三於
 一ヶ年ノ占有ヲ為スガ故ニ占有ヲ必要トセザル
 普通ノ取得時効ヲ成就スルコトヲ得又シ

此最後ノ決定ハ固ヨリ疑フベキ所ニアラズ何
トナレバ是レ原則ニ合スルモノニシテ且ツ前
ニ述ベタルト同一ノ理由ニテ少シモ真正ノ所
有者ニ損害ヲ與フル所ナケレバナリ

第三節 占有ノ効力

第一百九拾三条

本節ニ於テ立法者ハ占有ニ附着シタル三個ノ
利益ヲ明示シ而シテ占有ノ擔保タル占有訴權
ノコトヲ規定セリ
占有ニ附着シタル利益ノ第一ハ法律上ノ推定

ナリ即チ事實上ノ權利ヲ行使スルモノハ真正ノ擔

占有ニ依着シタル利益ノ第一ハ法律上ノ推定

ナリ即チ事實上權利ヲ行使スルモノハ真ニ權
利ヲ有スルモノト推定スルヤト是ナリ此利益
ハ一切ノ占有ニ附着セシメラレタル者ニ此ラ
ズ軍ニ法定ノ占有ニシテ之ヲ有セシム蓋シ自
然ノ占有者即チ已レノ物トシテ占有スルノ意
思ナクシテ或ハ權利ノ行使ヲ爲スモノハ自力
ヲ權利ヲ有スルノ意思ヲ有セサルモノナリ
ツテ法律上此權利ヲ有スルモノト推定セラレ
得心キニ此ラズ
容假ノ占有者ニ実ニテモ右ノ理論ハ愈ヨ明カ

ナルハ何トナレハ容假ノ占有者ハ他人ノ名
 義ヲ以テ他人ノ為メニ占有スルモノニ外ナラ
 ズ且ツ此場右ニ於テ權利ノ存在ニ付キ法律上
 ノ推定ヲ受クルモノハ容假ノ占有者ニ非ラズ
 ニテ容假ノ占有者ニ因テ法律ノ占有者ヲ為ス
 モノニ有レバナリ

法律上ノ推定ヨリ生ズル自然ニシテ且ツ必要
 ノ結果ハ法律ニ於テ之ヲ明示セズニ解釋者
 ノ注意ニ放任スルニト又為シ得心カラサルニ
 非ラズ然レドモ此ノ如クナルトキハ軍ニ字説

ニ止マリ其実用大ナラザラズニトナリ候ルハガ

此ラズ然レトモ
州ノ如クナリトキ
人軍ニ子護

ニ止マリ其実用大ナラザラズコトヲ悞ルガ

故ニ本法ニ於テハ明文ヲ以テ特ニ此結果ヲ規

定セリ

定

仁有者ハ既テ訴訟ニ於テ被告ノ地位ニ立ツノ

利益ヲ有スルモノナリ而シテ此利益ハ実ニ著

シキモノナリトス蓋シ訴訟ニ於テ被告ト知ル

モノハ自カラ進ニテ自己ノ権利ヲ證明スルコ

トヲ要セ又原告ヨリ提出シタル證據ヲ争ヒ之

ヲ打破ルヲ以テ足レリトス而シテ原告及ビ被

告共ニ自己ノ権利ヲ證明スルコト能ハサハ場

言ニ於テハ占有者ハ原告ノ請求ヲ排斥セシメ
テ訴訟ノ勝利ヲ得心シ是レ即チ被告ノ地位ニ
附着シタル利益ナリトス

明文ニ於テハ占有者カ被告タルノ利益ヲ有ス
ルハ單ニ争權訴訟ニ止ムルコトヲ規定セリ何
トナシハ占有訴訟ニ関シテハ後ニ至テ之ヲ看
ルカ如ク占有者ハ必ズモ被告タルモノニ非
ラズ事情ニ從ヒ時トシテ自カク原告ト爲ツテ
占有訴訟ヲ提起スルコト有ルハ必ズ
最後ニ注意スルキコト有り明文ニモ掲ケタル

如ク占有者ノ利益ニ
テ立チ原告カ設ケタル

最後ニ注意之ハキコト有り明文ニモ掲ケタル

如ク占有者ノ利益ニ及テ立御表カ設ケタル法

律上ノ推定ハ完全ナルモノニ非ラヌ之ヲ詳言

スレバ他ノ證據ヲ以テ打破スルコト能ハサル推

定ニ執ラズ即チ輕易ナル推定ナリ故ニ此推定

ニ對シテハ又對ノ證據ヲ提出スルコトヲ得心

ニ而シテ其證據ハ或ハ證書タルコトヲ得心ノ

又ハ證人タルコトヲ得心ノ凡テ一切ノ證據方

法ヲ用フルコトヲ得心ニ如ク之ナラス此ノ如ク

又證ヲ許スガ故ニ占有者ニ對シテ訴訟ヲ起ス

コトヲ得心ニ若シ之ヲ許スコトナキトキハ占

有者ハ直キニ權利ノ推定ヲ受テ而シテ此推定
ハ破ルコト能ハサルモノナリ時ハ何人トモト
モ之レニ對シテ争ヒヲ爲スコトヲ得又是レ實
ニ道理ト正義トニ及スルモノト謂ハサル可カ
ラズ

第九條

占有者が善意ナリ場合ニ於テ是レハ特別ノ利
益ヲ得セシムルコトハ遠ク羅馬法ニ其源ヲ究
ムルモノナリ然レドモ当初ニ於テハ未必善意
ノ占有者ノ特有之ニ利益ニ付テ充分ノ理由

ヲ附スルコト能ハザリシナリ

ヲ附之人ヲト能ハカリシナリ
 一派ノ學者ノ論也ニ所ニ仍シバ占取者ヲシテ
 果實ヲ取ルヤコナルト占取コト又人物權ニ加ヘ
 又人注意及ビ耕作ノ費用ト若カトヲ償フガ為
 又ナリト然レドモ此現由ハ二箇ノ点ヨリシテ
 甚ハ不完至ナルモノト認ハルヲ得ルニ第一果
 實ニ必ズシモ占取者ノ耕作ト注意トニ依テ生
 ズルモノニ非ラズ例令ハ樹林ノ採伐ヲ為シ又
 山嶽野ノ木草ヲ採取ハ如ク其採取ノ為ニ多少
 ノ力ヲ要スルモ之ヲ生ヤシクハ為ニハ耕作

ヲ要セス又何等ノ注意ヲ要セス即チ自然ニシ
テ發生スル果实ナリトス故ニ此ノ如キ種類ノ
果实ハ之ヲ天然ノ果实ト稱セリ蓋シ人ノ力
ヲ主要ナル事因トシテ發生スル人工上ノ果实
ニ對シテ此名稱ヲ附シタルモノナリ然レニ古
來ノ場合ニ於テ善意ノ利益トシテ果实ヲ取得
スルハ單ニ人工上ノ果实ノニ止マズ何等
ノ耕作ヲ用ヰサント天然ノ果实モ亦在來ニ
屬スルモノトスルニ至リ是レ右ニ掲ゲタル
理由ノ不完全ナル第一点ナリ第二若シ果实ノ

取得ハ注意ト耕作ノ報酬ナリトセバ然レニ

理由ノ不完全ナル第一点ナリ第二若シ果實ノ

取得ハ注意ト耕作ノ報酬ナリトモ不能令占有
者が悪意ナル場合ト至トモ仍ホ均シク之ヲ取
得セシメガレ可カラズ何トナレハ善意ナルモ
ノ独リ注意ト耕作ト為シ悪意ナルモノ決シ
テ然ラズト云フノ理ナリ此点ニ於テハ更ニ善
意ト悪意トノ間ニ區別ヲ為シ之ヲ所アラスシ
ハナリ
他人ノ學者ノ説ナリ所ニ據レド曰ク善意ノ占有
者ハ其占布セルモノヨリ生シタル果實ニ関シ
テハ殆レド真正ナル所有者ノ如シト此理由ハ

實ニ薄弱ナルモノナリ何トナシ人此理由

其至当ナルニトテ解セシムルニハ更ニ他ノ

理由ヲ以テ充分ノ説明ヲ為サツル可カラサシ

ビナリ要スルニ占有者ガ果實ヲ取及ズル権利

アリハ至ク占有者ハ所有者ト同一視セラル可

キモノナルニ由ルト云フニアリ然レドモ果シ

テ占有者ガ所有者ト同一視セラル可キモノナ

ルニ否ヤハ今一個ノ例ニ於テハ所ノコトナリト

ス

羅馬法ニ於テ人決定ノ至當ニシテ今日ト筆ト

モ仍ホ之ヲ採用スルニ真正ノ理由ハ左ニ述ブ

羅馬法に於て人決定ノ至當ニシテ今日ト事ト

モ仍ホ之ヲ採用スルモ真正ノ理由ハ右ニ述ブ

ル所ノ如クモシテ却テ他ニ存ス即チ善意

ノ占有者ハ自ララ信シテ真正ニ權利ヲ有スル

モソト爲エガ故ニ實際ニ於テハ屢々已ニ採收

シタル果實ヲ消費若クハ賣入シタルコト有ル

コト又能令未効之ヲ消費スルコトナクシテ保

存スルコトモ仍ホ已ニ此果實ヲ有スルカ

由メニ其價額ヲ以テ他日支弁スルキ義務ヲ合

意ニタル如キ場合アルハ之ヲ要スルニ羅馬

ノ法字者ガ右ニ掲グル所ト相類シタル場合ニ

於テ言ハル如ク善業ノ由有者ハ自己ノ財産増
 加ニ由ル為ニ其生活モ亦從前ニ比スルハ自カ
 ラ程登ヲ高メタルモノナリ此ノ如キ場合ニ於
 テ若シ其採收ニ又ハ果實ハ凡テ真正ノ所有者
 ニ返還セサル可カラズトセハ是レハ為メニ由
 有者ハ至ク甘毒ヲ極クルニ至ルハ必シ固ヨリ由
 有者が当効占有ヲ取得スルニ當リ何等ノ不注
 意ナシト偶ラハトヲ得ズ何トナシハ真正ノ所
 有者ヨリ讓受ケズトテ他人ヨリ之ヲ讓受ケタ
 ルモノナレバナリ然レドモ真正ノ所有者モ亦

他人が占有ヲ為セルニ笑ラズ自カラ機利者ナ

ルモノナレハナリ然レトモ真正ノ所有表モ亦

他人が台有ヲ為セルニ候ヲ必自カラ権利者ナ
 ルコトヲ知ラシムルコト莫クシテ時日ヲ経過
 セシメタルハ占有者ノ不注意ニ比シテ猶ホ一
 層大ナル不注意ヲ為シタルモノト認ムカレヲ
 得ル何トナシト占有者ノ不注意ハ当初占有ヲ
 取得シタル一時ニ止マレモ真正ナル権利者ノ
 不注意ハ常に継続シタルモノ為レバナリ
 此真正ノ理由ハ前ノ掲ケタルニ依リ此理由ヲ受
 シルモノニ依ラズ蓋シ第一ニ於テ此理由ハ天
 然ノ果實ト人工上ノ果實トヲ區別スルコトナ

ク均ニク之ヲ善意ノ占有者ニ取得セシムルノ
理ヲ明カニスルニ足ル又第一ニ於テ独リ善意
ノ占有者ニノニ適用ス可ク之ヲ善意ノ占有者
ニ之ヲ適用スルコトヲ得且ツ何等ノ説明ヲ
附セズ之ヲ單ニ問題ヲ以テ問題ヲ決スルモノ
ニモ訓ラザルナリ不意ノ不意ハ善意ノ占有者
用益者が果実ヲ取得スルニ當ツテハ單ニ其果
実が土地ヨリ發シタルヲ以テ足リト知ス然
ルニ本条ニ從ハバ善意ノ占有者が占有シタ
ルモノヨリ生ズル果実ヲ取得スルニハ此ノ如

ク其果実ト果実ヲ生ズルモノトハ別ニスルモノ

リ其果實ト果實ヲ生じ又ハモトト離レタルノ
ミヲ以テ足レリトセ又ハ必ズ占有者自カヲ此果
實ヲ採取スルカ又ハ占有者ノ名義ヲ以テ他人
ヲ以テ採收セシメタルカ二者必ズ其一ニ居ラ
ザル可カク又此ノ如ク用益権ノ場合ト占有ト
ノ別ニ區別ヲ設ケタル理由ハ一トテハ用益者
ハ完全ナル権限ニ基キテ果實ヲ取得スルモノ
ニシテ即チ純然タル一個ノ権利ニ基クモノナ
リ故ニ用益者が果實ヲ取得スルニハ其果實ガ
用益物ト区分シテ存在スルノミヲ以テ足レリ

ト知ス特ニ用益者が自カラ採取ノ所知ヲ知ス
ニトヲ要スルノ理由アラサレナリ

是レニ及ビテ善意ノ占有者ハ元來占有者ラシ

テ真正ノ権利ヲ得セシメ得ベキモノト善意ヲ

知シテ物ノ占有ヲ得タルニ非ラズシテ其契

約ニ依リ果实ヲ取得スル法律上ノ権限ヲ有ス

ルモノニ非ラズ此ノ如クナルが故ニ占有者が

果实ヲ取得スルハ實ニ法律ノ恩惠ニ依ルモノ

ナリト云フテ立法者カ此恩惠ヲ與フルニ当

リ占有者が自カラ果实ノ採收ヲ為シタルニト

ヲ以テ必要ナル條件ト定メタルハ實ニ其當ヲ

白布者カ自カラ果実ノ採收ヲ為シタルニト

ヲ以テ必要ナル條件ト定メタルハ實ニ其当ヲ
得タルモノト又何トナシバ白布者自カラ此處
為ラ爲シテ而シテ後始メテ法律ノ保護ヲ受ク
ルノ價値アル必シ若シ此場合ニ於テ悉ク其果
實ヲ返還スルコト必要ナリトモ白布者ハ全
ク其資産ヲ失フニ至ル可ケルハナリ
然レトモ法定ノ果實ニ関シテハ立法者ハ善意
ノ白布者ヲ以テ宛ニト用益者ト同一ノ地位ニ
立メシメタリ即チ白布者モ毎日毎ニ之ヲ取得
スルモノト又故ニ事實上其果實ヲ採收スルニ

失ツテ之ヲ取ルニトヲ得ル

若シ善意ノ占有者が法定ノ果実ヲ取得スルニ

受シテモ右ニ掲クハ如ク用益者ト同一ノ規定

ニ從ハズシテ常ニ天然ノ果実ト同一ノ方法

依リ占有者カ之ヲ採取シタルヲ要ス人モ

ノトセハ占有者ノ権利ハ法定ノ規則ニ因

ツテ消長スルニモ非ラズ又自己ノ注意如何ニ

因ツテ利害ヲ受クハニ非ラズ一ニ第三者ノ正

直小至トニ依ツテ果実ヲ取得スルト然ラズ

トノ區別ヲ生ズルニ至ルハ即チ法定果実ノ

責務者カ善意ノ占有者ノ要否ヲ定ムルハ

1ノ区別ヲ生スルニ至ルハ已ニ即チ法定事實ノ

債務者カ善意ノ占有者ノ取得ヲ妨ケ若クハ債

止セシムルガ其弁済ヲ為スコトヲ拒ミ又ハ

之ヲ遅延シタルトキハ遂ニ占有者ニ就テ果実

ヲ取回スルコト能ハサルハ已ニ催告此人如キ場

合ニ就テ占有者ハ債務者ニ對シ訴訟ヲ起シ且ツ

判決ヲ受ケタリトスルモ未タ債務者ヨリ其弁

済ヲ受ケザルニ先知ツテ真正ナル所有者ヨリ

直接ノ訴訟ヲ起シタルトキハ遂ニ得ル所ナカルハ

之此ノ如クナルハ之ヲ道理ニ照ラシ之ヲ公義

ニ鑑ミテ其當ヲ得タルモノト認マ可カラズ此

故ニ法定ノ果実ニ冥ニテハ用益者ニ付イテ此

決定ヲ採用セザリシト同一ノ理由ニ基キ善意

ノ占有者ニ對シテモ亦之ヲ退ケタリ

本条第二項ノ明文ハ一個ノ新又ナル決定ヲ出

シタリモノニシテ此決定ハ已ニ第百八於ニ第

ノ下ニ於テ一言シタリ所ナリ占有者ニシテ正

權常ヲ有シ且ツ善意ナル場合ニ於テハ前ニ述

ベク又ハ如ク善意ノ占有者ニ附着シタリ利益トシ

テ果実ヲ取戻スルニ及ビテ正權常ノ有

無ニ關ハテハ要旨ナル場合ニ於テハ後ニ掲ガ

ル如ク占有者ハ果実ヲ取得スルニ不能ナル

三三 際ハテ又書三十八 場合ニ於テハ後ニ控ル

ル如ク占有者ハ果実ヲ取得スルニト能ハズ然
 ルニ實際ニ於テ此書云ノ占有者ト書云ノ占有
 者トノ中間ニ置クハキ一種ノ事情存在スル占
 有者アリ之法律者ハ本条第二項ニ於テ實ニ此占
 有者ノ為メト一箇ノ規定ヲ設ケタルモノナリ
 占有者が誰令第三者ヨリシテ一箇ノ權利ヲ取
 得スルキ性質ノ權限ヲ得タルニトナシト爲ト
 モ實際ニ於テ自カク所有權ヲ有シ又ハ其他ノ
 權利ヲ有スルモノト確信シテ之レガ行使ヲ爲
 シタル場合ニ於テハ何人ト爲トモ此占有者ヲ

目之テ要言ナリト謂フコト疑ハサルヤシ
此占有者ガ正直ノモノナルコトハ疑ヒナク
ツテ多少ノ斟酌ヲ受テヤキモノナルコト明カ
ナリ然リト多トモ此占有者又ルヤ單ニ自カラ
橋利ヲ有スルモノト疏行スルコト止マリ何等ノ
正橋原ヲモ有セサルモノナルガ故ニ正橋原ヲ
有スル善言ノ占有者ト同一ノ利益ヲ之レニ與
フ可カラザルコト又勿論ナリトス
先ツ如何ナル場合ニ於テ占有者ガ正橋原ヲ有
スルコトナクシテ善言ナルコト有ルヤキヤヲ

手スルニ最モ善言ナル場合ハ一人ガ正當相續

手ス心シ最モ善通ナル場合ハ一人ガ正當相続
人ナリト信シテ他人ノ相続財産ヲ占有シ而シ
テ實際他ニ一層親縁近キ血族ノ存シタル場合
又ハ死者ノ遺言ニ依テ其財産ヲ他人ニ遺贈シ
タル場合ノ如キ是ナリト又相続ノ場合ニ
於テ真正ナル相続人が相続財産ナリト信シテ
占有シタルニ實際相続ニ属セズ至テ他人ノ所
有ニ属スル不動産ナリト如キ場合是ナリ凡テ
右ニ掲グルル場合ハ事實上ノ錯誤ニ基クモノニ
シテ法律上ノ錯誤ニ基クモノニ執ラズ法律ノ

錯謬ニ因テモ仍ホ正檢算ナキ善意ノ占有者ヲ
生ゼシムルニ至ルコト有ルハ即チ當初客假
ノ占有ヲ有シタルモノガ算出ハ十五季ニ捲ケ
タル二個ノ方法ニ依ルコトナリ他ノ算因ニ依
ツテ其性質ヲ変ジ至ク客假ノ占有ガ法定ノ占
有ト为リタルニトテ行ハレタル如キ即チ是レ十
以上ニ掲ケル如ク占有者ハ其性質上善意ノ占
有者ト善意ノ占有者トノ中間ニ立ツテ以テ其
利益ニ付スルヲ亦而者ノ中取ルニ在ラシメザル

可決ラヌ

利益の付く事と云ふ者の中なるに在らば之が

可カラズ

短期の所得時効の事ヲハ勿論此種類ノ在る者

ニ利益ヲ與へサルヲ以テ至當ナリト之何トナ

レハ輩ニ善言ヲ衣スルニ止スル正橋宗ヲ有

スルコトナク假令錯誤ニ依ツテ破信ニタリト

スルモ是レが為ニ正橋宗ヲ有セサルノ理由ナ

ケレバナリ

果實ニ笑ヒテハ先ツ正橋宗ニシテ且ツ善言ノ

占有者ニハ何故ニ法律が果實ヲ取得セシムル

ヤヲ考つルコトヲ要ス已ニ求心スル如ク正橋

系ヲ有之且ツ善意ナリ在者ハ之ヲ真正ナル
 所有者ニ比スレハ不注意ノ賣ム可キモノ甚如
 尠ナリ而シテ其利益ハ所有者ノ利益ニ比シテ
 甚如法律ノ保護ヲ受クベキ事情存スルニ依テ
 果實ヲ取得セシメタルモノナリ然レドモ此ノ
 如キ理由ハ正橋常ナクモテ軍ニ錯謬ヲ爲シタ
 ル在者ニ適用スルコトヲ得ス例令ハ自カラ
 相饒人又チナルニ誤ツテ相饒人ナリト信シタ
 ルカ如キ又ハ他人ニ屬シタル財産ヲ以テ相饒
 財産ナリト誤信シタルカ如キ凡テ多少ノ不注意

意ヲ是カレサルモノナリ然レドモ自カラ信シタ

財をナリト認位ニ及ルカ如キ其テ多少ノ不注

意ヲ受カレサルモノナリ然レニ自カラ位正々

ルノ一事ニ依リテ真正ノ所有者ノ損害ヲ顧ミ

不專ラ在右者ヲニテ果実ヲ取得セシムルハ道

理ト公義トニ及シ又ハモノト認ハサルヲ以テ

其理在ニ述ハル如クナレバ故ニ若シ真正ノ所

有者ヨリ此種類ノ在右者ニ對シ財產ノ回復ヲ

請求シ又ハ當時●在右者仍ホ果実ノ全部若ク

ハ一部ヲ保存シ又ハ場合ニ於テ自巳ノ錯

謬ヲ理由トシテ此現存ノ果実ヲ自巳ノ手ニ止

メシトスルハ不当ノ最ニ甚クシキモノナリ

此ノ如キ場合ニ於テハ實ニ占有者ハ何等ノ正
當ナル原因ナクシテ他人ノ財産ニ依リ不當ノ
利得ヲ得ルモノナリ若シ占有者が已ニ此果实
ヲ消費シタリトスルモ其消費ノ方法ハ占有者
ヲシテ利得ヲ得ルモノナリ可キ性質ノモノナリ故
ニ例令ハ占有者カ其果实ヲ棄却シテ之ヲ其代
價ハ未タ買主ヨリ承済ヲ受ケズ又ハ承済ヲ受
ケタムルモ其金額ハ未タ消費セズ又ハ其果实ハ
米穀又ハ薪等ノ如ク必要ナル日用品ニシテ占
有者及ヒ其家族ノ為メニ消費シタリタル如キ場合

ニ於テハ左ニ掲グル所ト同一ノ理由ニ依リ占

木者及ヒ其家族ノ夫々ノ濃量ニ父儿如キ場合

ニ於テハ右ニ掲ガル所ト同一ノ理申ニ依リ右
有者ハ正当ニ其果实ヲ取得スルコト能ハサレ
可シ蓋シ此場合ニ於テハ右有者ハ自己ノ金銀
ヲ使用スルコトナク他人ノ財産ヲ使用シ依テ
不当ノ利得ヲ得父儿モ人ナレバナリ
然レドモ或ハ特別ノ場合ニ於テハ仍ホ此右有
者ノ事情ヲ斟酌シ其責任ヲ輕カラシムルヲ以
テ正義ニ合シ父儿モト為ラズ能令此種類ノ右
有者ハ正橋系ニ基ケル右有者ノ如ク此然父儿
善意ト善意ト批ラサレモ仍ホ正直ナル右有者

ト謂フコトヲ得ハシ目ツ一方ニ於テハ真正十
ル所有者が多少ノ不注意ヲ爲シタルが爲メニ
在る者ヲシテ贖得ヲ容易ナラシメタルノミナ
ラズ仍ホ久シク其贖得ナルコトヲ知ル能ハサ
ラシメタルモノ爲ルが故ニ一報善ノ果實ヲ返
還セシメ、現物ニ於テモ相當ノ價額ニ於テモ已
ニ存在セサル果實ニ至ルマデ凡テ真正ノ所有
者ニ歸セシムル如キハ在る者ヲシテ返還ニ其産
ヲ失フニ至ラシムルモノニシテ是レ又其爲ラ
得タルモノト謂フ可カラズ此ニ於テカ立法者

ハ其中ヲ執リ從令正擔索ヲ有セサルモ善意ナ

後又人モノト認マフ可カラズ此ニ於テカ立法者

ハ其中ヲ執リ能令正撥索ヲ有セサルモ善言ナ
ル占有者ハ占有物ヨリ生ジ又ハ果實ニシテ占
有者が現ニ之ヲ有セズ且ツ何等ノ利益ヲモ得
ザリシ部分ニ付テハ真正ノ所有者ニ對シ債權
ノ義務ナキモノト決定セリ

是レト同時ニ法律ハ證據提出ノ責任ニ関スル
問題ヲ決セリ即チ占有物ヨリ生ジ又ハ果實ニ
付キ占有者が不当ノ利益ヲ得又ハニトハ之ヲ
回復セシトスル占有者ヨリシテ之ヲ證明スル
コトヲ要セズ故ニ真正ノ所有者ハ惟占有者が

果實ヲ採取シタルコトヲ證明スルヲ以テ正レ
リトス可シ加之ナラズ占有物ヨリ生ズル普通
ノ果實ニ至テハ占有者之ヲ採收シタルコト經
令法律上ノ推定存セサルモ所謂事實上ノ推定
ヲ以テ之ヲ證シ得ベキナリ已ニ此事實ニシテ
證明セラレタルトキハ占有者ニ於テ自己ノ義
務ヲ受カルニハ自カラ果實ノ採收ヲ為サハ
ルニコト又ハ採收ヲ為シタルモ其數甚カ寡ナ
キコトヲ證スルカ或ハ採收シタル後其果實ヲ
滅失シ或ハ何等ノ利益ヲ得ルコトナクシテ其

至部若クハ一部ヲ他人ニ贈與シタル消費シタル

海失... 或ハ... 等ノ利益ヲ得ルコトナクシテ其

全部若クハ一部ヲ他人ニ贈與シ又ハ消費シタ

ルコトヲ證明セザル可カラズ若シ此證明ヲ為

サハルトキハ假令(即)真正ノ所有者ハ占有者ニ

於テ不当ノ利益ヲ得タルニトシテ證明ヲ為サハル

トキトモトモ之レガ償還ノ義務ハ占有者が受

カルハ能ハサル所ナリ

右ニ述ブ所ノ如クニシテ始メテ二個ノ及對

シタル利益及び法律卜道義ノ原則ハ至ク信和

セラレタリト謂フ可シ

本条末項ニ規定スル所ハ当効善意ナル占有者

が或人原因ニ依テ他日善言ナラザルニ至リシ
場合ナリ即チ権業ノ瑕疵ヲ知ラザリシ占有者
が後ニ至リテ自己ノ行使スル權利ノ已レシニ属
セザルコトヲ知リタル場合ナリトス

善言ノ占有者カ自カラ行使スル權利ノ自己ニ
属セザルコトヲ確知シタルトキハ将来ニ向ツ

テ善言ノ利益ヲ失ヒ即チ其時ヨリニテ果実ヲ

取得スルコト絶ハサルモノナリ然レトモ其以

前ノ果実ニ関シテ人前ニ掲ケタル區別ニ從ツ

テ依然占有者ノ有ニ帰スベキモノナリ例令ハ

正當ノ所有者ノ田畑ガ占有者ノ善言ノ止息ニ

元依此占有者ノ有ニ帰スベキモノナリ例令

正当ノ所有者ノ面被ガ占有者ノ善意ノ止息ニ
及ル後ニ至リ始メテ行使セラレタル場合ニ於
テモ亦然リト為ス

此点ニ関シテハ果實人取得ニ付テ必要ナ
善意ト權利ノ取得時効ノ為ニ必要ナ善意ト

ノ間ニ判然タル區別ヲ設クル為メ法律ニ於テ

特ニ之ヲ示スコトヲ必要トシ又取得時効ノ点

ニ於テハ正当正権原ニシテ且ツ善意ナリシ占

有ハ後ニ至リテ縱令悪意ノ占有ニ変スルモ是

ルが為ニ占有者ノ性質ヲ変スルモノニ執テ不

ル

此事之冥之テハ時効ノ事ヲ逆クニ當ツテ亦
説明ヲ共フヤシ

兼通ニ説ク所ニ仍レハ裁判所ニ提出シタル請

出ハ被告タル占有者ヲシテ善意ノモノト爲ト

モ猶ホ善意ノモノタルコトハ効力ヲ有スル

モノナリト此説タル決シテ其當ヲ得タルモノ

ニ非ラズ故ニ法文ニ於テハ勤メテ其誤解ヲ避

ケタリ蓋シ善意ノ占有者ハ時トシテ自カラ信

ズルコト甚ダ深ク能令他人ヨリシテ訴ヲ受ク

ルコト有ルモノ之レカ否ニ從來ノ破綻ヲ憂セズ

依然トシテ自カラ審判者ナリト爲フコト有ル

ハコト有ルモ之レカガニ従来ノ確信ヲ受セズ

依然トシテ自カラ權利者ナリト思フコト有ル
心ニ然レドモ真正ノ所有者又ハ他人ノ真正ナル
權利者ヨリ在在者ニ對シテ訴ヲ起シタリトス
ルモ此訴訟ハ直キニ其~~終~~局ニ至ルモノニ非ラ
ズ所ニテ此短カ、ラザル時限ノ在在者^軍ニ
自カラ信ズルノ一事ニ基キ何等ノ請求ヲ受ク
ルモ依然トシテ果実ヲ取得スルコトハ是レ亦
其當ヲ得タルモノト謂フ可カラズ此ヲ以テ立
法者ハ一方ニ放テ在在者ヲシテ善意ノ利益ヲ
失ハシムルモ未必直キニ善意ノ在在者ナリト

せふ且ツ此ノ如クナルニハ占有者ニ對スル情
 刺が後局ニ於テ正当ノモノト確定ノ判決ヲ受
 ケタルコトヲ以テ必要ノ条件ト為セリ而シテ
 此条件ナルヤ否之ニモ法律ノ明文ヲ俟テ始メ
 テ生ズルモノニ非ラサルナリ何トナシハ縱令
 一旦回復ノ訴ヲ受クルモ其請求ニ之テ棄却セ
 ラシタル場合ニ於テハ占有者ノ善意ハ其互力
 ヲ回復シ一時訴訟ヲ受ケタルカ否ニ何等ノ
 傷ケラレハ所アル可カラスルハナリ
 第九十五番

道理上ヨリ蒙正ニ之ヲ諦スルトキハ善意ノ占有

道理上ヨリ蒙正ニ之ヲ論スルトキハ善惡ノ占
 有者ハ真正ノ権利者ヨリ之ヲ何等ノ請求ナキ
 トキトモ自巳ニ屬スルモノニ非ラザ
 ルコトヲ知レルカ故ニ進ニテ之ヲ返還スルヲ
 以テ当然ト爲ス然レドモ或ハ真正ナル権利者
 ノ何人タルヤ判然セザルガ爲メ又ハ自カラ正
 直ナラザルカ爲ニ占有物ヲ返還セザルコト有
 ルベシ此場合ニ於テハ真正ノ権利者ヲ害シテ
 自ナラ不当ノ利益ヲ得心キモノニ非ラズ且ツ
 若シ此占有二依テ真正ノ権利者ニ損害ヲ加ヘ

又ハ場合ニ於テハ自カラ之シガ賠償ノ責ニ任
 セサル可カラ又悪意ノ占有ノ場合ニ於テハ善
 意ノ占有ノ場合ノ如ク占有者ヲシテ一切ノ畢
 実ヲ返還セシムルハ之ヲシテ其資産ヲ破ラ
 シムル者ナリト認フコトヲ得ズ何トナレバ已
 ニ述フル如ク悪意ノ占有者ハ其占有之ル所ノ
 物至ク他人ニ侵スルコトヲ知ルカ故ニ果實ハ
 是ヲ償還スルキコト当分ヨリ^期之ル^責任ツテ
 之ヲ消費セズ又他人ニ讓渡スルコトナキヲ要ス
 故ニ自カラ利得ヲ為ササル場合ニ於テモ之シ

ガ劣ニ生活ノ度ヲ高メタルハ其過失ト認ハサ

故ニ自カラ利得ヲ為サレバ場合ニ於テモ之シ

ガ劣ニ生活ノ度ヲ高メタルハ其過失ト得ハサ
ルヲ以テ若シ占有者ニシテ果実ヲ採收又可キ
トキニ當リ其全部若シハ一部ニ付テ採收ヲ
怠リ又ハ採收ニタル後保存ノ注意ヲ怠リ又
ルガ劣ニ果実ヲシテ滅失セシメタル如キ場合
ニ於テハ真正ノ所有者ニ對シテ其責ヲ受ナル
ハト云ハス

占有者カ他人ノ財産ニ依テ不当ノ利得ヲ受ク
可カラザルト同一ノ理由ニ依リ真正ノ所有者
モ亦悪意ノ占有者ヲ害シテ不当ノ利益ヲ得心

キモノニ此ヲ必依ルニ所有者が果実ノ回復ヲ
知スニ当リ占有者ニ對シテ何等ノ償還ヲ為サ
ルルトキハ所有者ハ占有者ノ財産ニ依テ自カ
ラ富ヲ得タルモノト謂ハサルヲ得ズ何トナシ
バ耕耘收穫ノ費用果実保存ノ費用果実ヲ以テ
負擔スルキ租稅其他ノ公課ノ如キ占有者が支
弁シタル所ノモノ有ルニ此ノ如キ費用ハ所
有者自カラ果実ヲ採收スル場合に於テモ亦免
カルニ能ハサル所故ニ占有者之レガ立替ヲ為
シタル場合に於テ所有者ハ占有者ニ對シテ其

償還ヲ為ス可キコト勿論ナリ本条第二項ニ於

父ハ揚合ニ於テ所有者ハ占有者ニ對シテ其

債還ヲ為ス可キコト勿論ナリ本条第二項ニ於

テ決定スル所ハ實ニ此点ニ在リトス

是ヨリシテ説明スルキ所ハ強暴又ハ隱密ノ瑕

疵了ル占有ノ場合ニ於テハ果實ノ点ニ付テ如

何ナル露方ヲ為ス可キヤヲ明カニスルニ在リ

且ニ述ベタル如ク此ノ如ク瑕疵了ル占有ハ強

令正権原ヲ有スルトキト多トモ仍ホ時効ヲ成

就セシムルモノニ非ラズ又常ニ美言ト西立之

ルニト能ハスルハ前段ニ於テ説明シタル所ナ

リ

暴行ニ由テ占有ヲ取得シ又ハ之ヲ維持シ若ク
ハ占有ヲ隠匿シ又ハ悪意ノ占有者ハ果実ニ付
テ何等ノ權利ヲモ有セザルニト固ヨリ辨ヲ俟
又ハ何トナレバニ悪意ノ一事ニ因テ此等ノ
權利ヲ失ハシムルニ足レバナリ然レドモ正権
系ト善意トヲ有シ而シテ占有ヲ維持スル為ニ
脅迫ヲ行ヒ或ハ第三者及ビ特ニ真正ノ所有者
ニ對シテ占有ヲ隠匿シ又ハ占有者ニ付テハ如
何ナル決定ヲ為之可ヤヤ此尚歎ハ特ニ之レガ
研究ヲ為スノ價値アルモノニシテ法律ヲ以テ

次ノ理由ニ依リ占有者ノ不利益ニ於テ決定ヲ

次ノ理由ニ依リ占有者ノ不利益ニ於テ決定ヲ
為セリ強暴ノ占有者又ハ隱匿ヲ為セル占有者
ハ善意ノ占有者ニ比シテ更ニ保護ヲ受ク可キ
モノニ非ラズ或ハ善意ノ占有者ヨリモ一層保
護之可カラサルモノナリト悞フヲ得ベシ何ト
ナレト真正ノ所有者ノ回復ニ對シテ一層大十
ル妨害ヲ為スモノナレトナリ故ニ此ノ如キ占
有者ハ何等ノ果實ト多トモ之ヲ取得スルコト
ヲ得ズ凡テ善意ノ占有者ト均シク償還ノ義務
ヲ負ハサル可カラズ從令何等ノ利益ヲ受クル

コトナクシテ滅失セシメタル果実又ハ当初ヨ
 リ採收ヲ怠リシ果実ニ至テモ皆然リト為ス
 以上述ガル所ノ如クナリニ依リ強暴若クハ隱
 密ノ占有ヲ有スルモノハ軍ニ所有権ノ推定ノ
 利益ヲ受ケ得テ回收ノ占有訴権ノ場合及び本
 権訴権ノ場合ニ於テ被告タルノ利益ヲ有スル
 ノミナリ

第九十六條 前条第二ノ規定ト同シノ何人ト
 爲トモ権利ヲ有スルニトナシテ他人ノ利益

ヲ害シ自カラ利益ヲ受ク可カラズト謂ヘン事

進トモ稀利ヲ有スルニトナシテ他人ノ利益

ヲ害シ自カラ利益ヲ多ク可カラズト謂ハル事
 則チ確證シ又ハモノナリ惟チ事ノ前条ト異ナ
 ル所ハ前条ニ在テハ果實ノ為ニ費ヤシ又ハ費
 用ニ費シ奉条ニ於テハ正衣ノ目的又ハモノニ
 関スル費用ナリトス
 凡テ物ニ付テ為シ得ベキ費用ハ之ヲ分テ三種
 トス第一必要ノ費用并ニ有益ノ費用并ニ奢
 靡ノ費用是ナリ必要ノ費用トハ奉条ニ所謂物
 ノ保存ノ為メノ費用ニシテ物ヲ保存スルハ何
 人ノ手ニ在ルモ必要ノ費為ニ算スルモナリ

故ニ保存ノ爲メノ費用ヲ如ケテ必要ノ費用ト
謂フ有益ノ費用トハ必要ナラザルモ仍モ利益
ヲ生ズ可キが故ニ此名稱ヲ附シタルモノナリ
本年ノ物ノ増價ノ爲メノ費用即チ是ナリ奢靡
ノ費用トハ固ヨリ必要ナラズ又是レが爲ニ物
ノ價格ヲ増加セシメズ或ハ軍ニ娛樂ノ爲ニ費
ヤシタルが如キ費用ヲ指スモノナリ占衣者が
其占衣物ニ是ヤシタル費用ノ中軍ニ娛樂ノ爲
ニ供シタルモノニシテ回役者ノ爲ニ何等ノ利
益ヲモ得セシメザルモノハ回役者ニ對シテ債

還ヲ求ムルコトヲ得ズ第ニ種ノ費用即チ是ナリ

益ヲモ得セシメホルモノハ
回彼者ニ對シテ債

還ヲ求ムルコトヲ得ズ第ニ
程ノ費用即チ是ナ

リ
是ニ及シテ有益ノ費用ハ
占友ノ目的タルモノ

ニ多少ノ増價ヲ與ヘタル
者ナリ故ニ回彼者

ニ於テモ亦因テ多少ノ利益
ヲ受タルモノナリ

故ニ之レが債還ヲ受クル
コトヲ得ベク必要ノ

費用ニ至ラズ若シ占友者
ニ於テ保存ヲ為サ

ル場合ニ於テハ回彼者
ニ於テ自カラ保存ヲ為

シタル可キコト勿論ナル
が故ニ其費用ハ占有

者ニ對シテ之ヲ債還セザル
可カラズ

者ニ對シテ之ヲ債還セザル
可カラズ

此ノ如ク是用ノ種類ヲ分ツテ三個ト告之ニト
ハ遠ク飛馬法ニ発スルモノニシテ今日ニ於テ
モ仍ホ其当ヲ得タルモノト謂ハガレテ以テ故
ニ近世諸國ノ法律ニ於テモ仍ホ此區別ヲ採用
セリ

本法中ニ於テモ惟リ本条ノミナラズ仍ホ屢々
此區別ヲ表ルニト有ルヲ以テ

第百九於七条 是用ハ百条ノ目録ニ於テ
已ニ第ニ条ニ於テ掲ゲタル如ク留置機ハ債機
ノ擔保タル一個ノ物機ナリ留置機ハ受機ト甚

ノ後保女ハ一個ノ物橋ナリ留置橋ハ笠橋ト甚

女相類トナリト多トモ其実至夕曰一十九元ノ
ニ此ヲ不留置橋ハ債橋者ヲシテ留置橋ノ目的
ナル也ノヲ占有シ其物ト云テ生シタル債務ノ
弁債ヲ受クルヲ爲シ之ヲ返還セザルニトテ得セ
シムルモノナリト云々
此ノ如ク担保女人物橋ヲ債橋者ト占有セシム
ルモノナリト故ニ一見シテ甚ハ笠橋ト相類ス
ルガ如シト多トモ其実決シテ然ラズ蓋シ留置
橋ハ笠橋ノ場合ノ如ク債橋者ヲシテ其占有ス
ル物橋ヲ盡却セシメ其代金ニ女ヲ他人債橋者

二 失ふ千優先権ヲ以テ年流ヲ受クハノ権利ヲ
 得セシムルモノニ非ラズ庫ニ留置シタル物権
 ヨリ果実ヲ生シタル場合ニ於テハ此果実ニ付
 テ先取特権ヲ以テ債権ノ利息及び元本ニ充當
 スルノ権利ヲ有スルニ止マシム此故ニ留置権ハ
 果実ノ充當ニ因テ完全ノ年流ヲ永遠ニ期スル
 カ然ラザレバ真正ノ所有者モ又ハ其債権者等
 ガ留置セラレタル物ノ自由ナル處方ヲ回復ス
 ル為ニ年流ヲ失フコトヲ疎ツミ非ラザレバ充
 分ニ其目的ヲ達スルコト能ハズ然レトモ債務

者ハ必ズヤ物ヲ留置スルノ利益アルガ為ニ早

方其目的ヲ達之ルコト能ハズ込シトモ債務

者ハ必ズヤ物ヲ回彼スルノ利益アルガ為ニ早

映留置権ヲ有スルモノニ債務者ノ弁済ヲ為ス

ニ至ルヤシ

右ニ述ブル所ノ如クナリテ以テ留置権者ノ占

有ルハ其経来ノ占有ト同一人性質ヲ有スルモ

勿レ批ラズ何トナシテ経来ノ占有者ハ法定ノ

モノナリシモ其後ノ占有者ハ全ク客假ノモノ

ニ過キサレナリ

留置権ノコトハ債権担保篇ニ於テ其詳細ノ説

明ヲ為スヤシ

立法者ハ本条ニ於テ又善意ノ占有者ト爲意ノ
占有者トノ間ニ一個ノ差異ヲ設ケタリ然レド
モ此差異ハ特ニ説明ヲ俟タズシテ容易ニ解ス
ルコトヲ得タリ即チ善意ノ占有者ハ善意ノ占
有者ト同シク必要ノ費用及び利益ノ費用ニ付
テ真正ノ所有者ニ償還ヲ求ムルノ権利ヲ有ス
レドモ其債権ノ擔保トシテ留置権ヲ有スルハ
軍ニ必要ノ費用ニ充テテ然ルノミ故ニ利益ノ
費用ノ償還ヲ求ムル爲メニハ占有ニ及ル物権
ヲ留置スルコト能ハズ

第九卷第八條